写真はキリスト新聞提供

12 月 15 日刊行予定

四六判上製・296 頁・定価 1,980 円（税込）
本体 1,800 円＋税　ISBN978-4-909871-97-8 C0016

金子晴勇［著］（ヨーロッパ思想史）

1985年教文館刊行
＊『恥と良心』構成改訂改題増補版

「良心」の天路歴程

隠れたアンテナ効果とは？

天上への道は良心のそれである。M. ルター

〈良心〉は、単に道徳意識の源泉であるにとどまらず、人間の生存と存在の根源 ― 霊性 ― に深く根を下しているのではないか？ 古今東西の宗教、哲学、文学における著者ならではの縦横無尽なフィールドワークの集積によって新たな「良心論」が誕生！ 創造された人間すべてに備えられている“アンテナ機能”とはなにか？！

主な目次

序説 ―― 霊性の扉は良心現象の解明によって開かれる
序論　良心はどんな現象を意味するのか
(1) ヨーロッパ精神史における良心概念の形成／(2) ルターにおける良心概念／(3) 現代人の「良心」意識の問題
第 1 章　日本人の恥の意識と良心
(1) 恥の文化と罪の文化／(2) 恥と良心との関係／(3) 漱石の『こころ』／(4) 恥の三形態、公恥・自恥・羞恥／(5) 良心と実存の三段階／(6) キルケゴールの三段階説
第 2 章　良心の現象　その 1 ―― 社会的良心
(1) 一般化された他者／(2) 社会的規範の内面化／(3) 日本的な人倫組織と良心／(4) 良心の強制と自由／(5) 警告する良心
第 3 章　良心の現象　その 2 ―― 倫理的良心
(1) 自然法と良心／(2) 実践理性と良心／(3) 理想と現実／(4) 告発し審判する良心／(5) 倫理的「やましくない良心」
第 4 章　良心の現象　その 3 ―― 宗教的良心
(1) 倫理的良心から宗教的良心へ／(2) やましい良心の発生過程／(3) やましい良心と死／(4) 情緒的良心の現象／(5) やましくない良心の諸相／(6) 信仰による良心の新生／(7) 超道徳的良心の問題
第 5 章　良心概念の多義性と統一性
(1) 語義的考察／(2) 道徳的意識の源泉としての良心／(3) 宗教的世界観の反映
第 6 章　良心と悔恨の学説史
(1) 良心概念の学説史的考察／(2)「悔恨」（Reue）概念の解釈上の対立
第 7 章　ルターとドストエフスキーの良心概念 ―― 比較考察の試み
(1) ルターとドストエフスキーの共通点／(2) 魂の深淵としての超道徳的良心／(3) 良心の三つの形態／(4) 良心における神と悪魔との対決

付論　バニヤン『溢れる恩恵』の物語

『「良心」の天路歴程』―― あとがき

著者紹介　金子晴勇（かねこ・はるお）　1932 年静岡生まれ。1962 年京都大学大学院博士課程中退。67 年立教大学助教授、75 年『ルターの人間学』で京大文学博士、76 年同書で日本学士院賞受賞。82 年岡山大学教授、1990 年静岡大学教授、1995 年聖学院大学客員教授。2010 年退官。　**主な著書**：『ルターの人間学』（1975）『アウグスティヌスの人間学』（1982）、『ヨーロッパ人間学の歴史』（2008）、『エラスムスの人間学』（2011）、『アウグスティヌスの知恵』（2012）、『知恵の探求とは何か』（2013）、『キリスト教人間学』（2020）、**『私たちの信仰』**（2020）、『人文学の学び方』（2020）、『ヨーロッパ思想史』（2021）、**『東西の霊性思想』**（2021[2]）、**『キリスト教思想史の諸時代 I ～VII、別巻 2』**（2020 ～ 2023）ほか多数　**主な訳書**：アウグスティヌス著作集 第 9 巻（1979）、ルター『生と死の講話』（2007）、ルター『神学討論集』（2010）、エラスムス『格言選集』（2015）、C. N. コックレン『キリスト教と古典文化』（2018）、エラスムス『対話集』（2019）ほか多数　**太文字**は小社刊行

株式会社ヨベル　YOBEL Inc.　〒 113-0033　東京都文京区本郷 4 - 1 - 1　T 03-3818-4851　F 03-3818-4858　http://www.yobel.co.jp